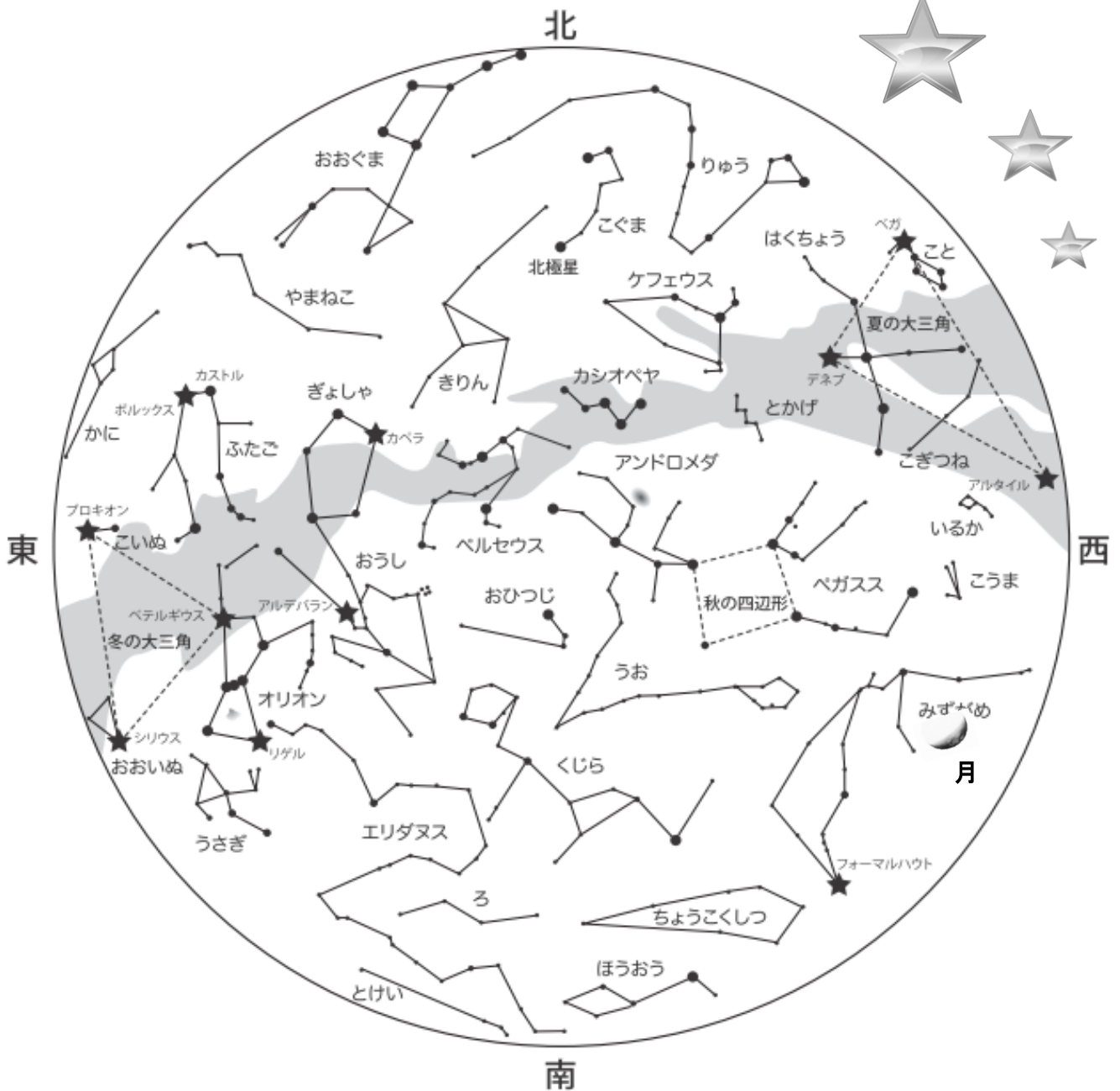


松江市立天文台～12月の天文教室～

平成27年12月16日

12月中旬午後8時頃の星空



いよいよ冬本番です。暗くなって空を見ると冬の星座が・・・と思えば、西の空にはまだ夏の星座が見えています。これは、12月の冬至に向けて日が短くなり、暗くなるのが早いので起こる現象です。

とはいえ、東に目を転じると、冬の星座達が続々昇ってきています。おうし座、ぎょしゃ座、オリオン座、ふたご座とみな1等星のある、見つけやすい星座です。ぜひ探してみてください。

12月中旬午後8時頃の星空です。

月の大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月

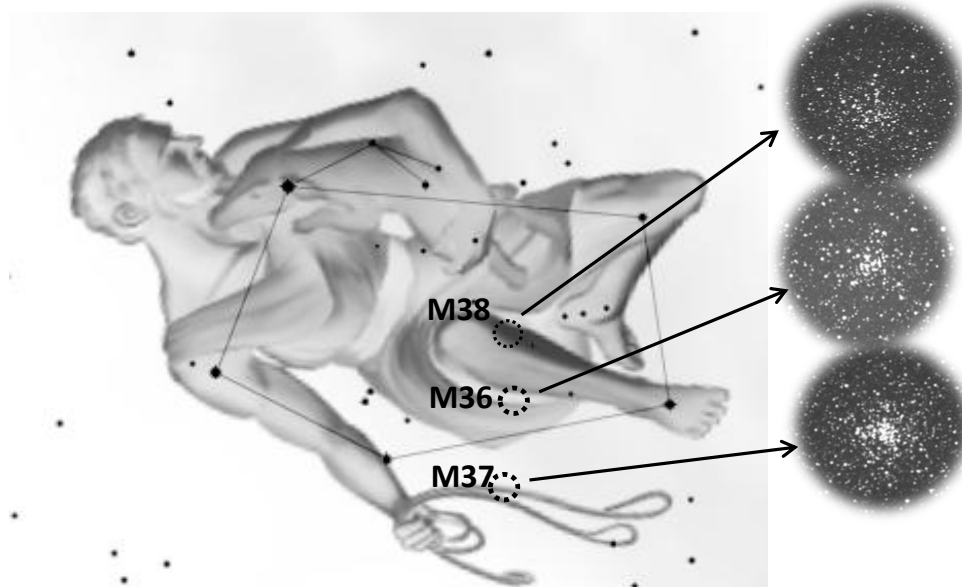
今夜の月は月齢5、三日月を過ぎて、少し大きくなっています。
よく見ると光っている部分が下の方になっていて、まるで、お茶わんか、お酒のおちょこのようにも見えますね。
これは冬の月の特徴で、逆に夏は光る部分が立ったかたちで沈んでいきます。



冬の星雲・星団

ぎょしゃ座

ぎょしゃとは馬車などを運転する人のことですが、星座絵はやぎを抱く老人として描かれています。もとは車に乗った姿であったのが、車が忘れられたのではないかとされています。また古代中国では、「五車」と呼ばれています。やはり車を連想したのでしょうか。



団子3兄弟？

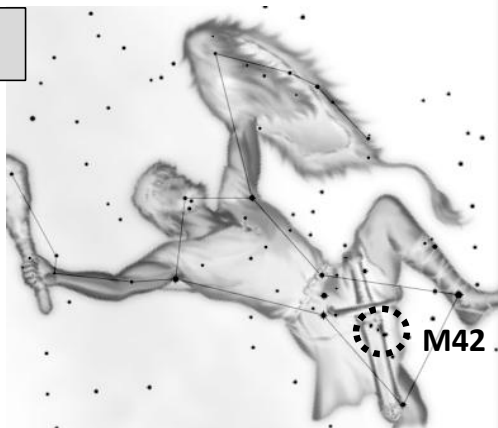
ぎょしゃ座には3つの大きな散開星団があります。
どれも小型の望遠鏡で見えますが、一番大きなM37は、まるで黒い布に宝石をまき散らしたような美しさです。

オリオン座の散光星雲M42

冬の星座の中でもオリオン座は特に有名です。星座に詳しくなくても、見たことがあるのではないのでしょうか。

M42は、暗い空では肉眼でも確認でき、双眼鏡で鳥が翼を広げたような形に見えます。さらに望遠鏡では、複雑な濃淡が見えてきます。

最近ではハッブル宇宙望遠鏡によって、この星雲の中で新しい星が生まれていることが確認されています。



M42 会員の古都さんが撮影

資料のデータは天文年鑑、アストロアーツから引用しています。
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。
また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

次回の天文教室

開催日 平成28年1月20日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会